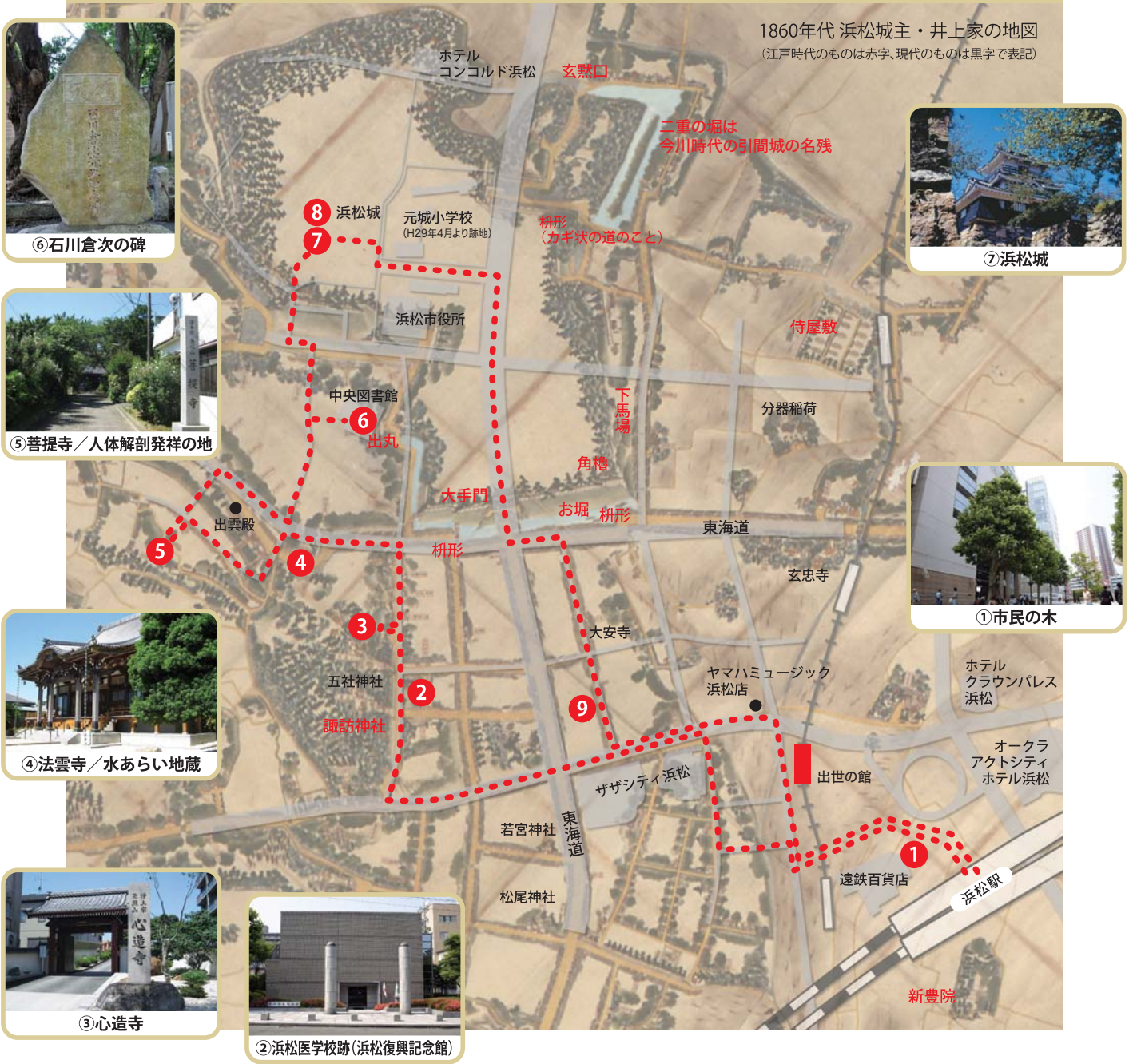
浜松と医学のストーリー～浜松近代医学の聖地～

作成：浜松商工会議所

約4.6km　約1.5時間　約280kcal

※所要時間に見学時間は含まれていません。



⑥石川倉次の碑

⑤菩提寺／人体解剖発祥の地

④法雲寺／水あらい地蔵

③心造寺

②浜松医学校跡（浜松復興記念館）

⑦浜松城

①市民の木

①市民の木

戦災で枯れ死寸前となったプラタナスを地元民の努力によって再生。昭和39年に「市民の木」と命名された

②浜松医学校跡（浜松復興記念館）

浜松医学校長・太田用成らが米国の医学書を翻訳し、日本初の西洋医学書を出版。解剖、生理、化学、薬学、内科、外科、産科の7科で「七科約説」と名付けた

浜松市博物館蔵

③心造寺

徳川秀忠を産んだ西郷の局が開いた寺。現在、遠江四十九薬師の二十二番札所で、目の治療にご利益があるとされている

④法雲寺／水あらい地蔵

藩校の「経誼館」「克明館」の跡に旭町から移転。東側に若槻礼次郎書、昭和6年建立の記念碑「偉大也協力一致之功」がある。境内にある水あらい地蔵に水をかけて患部と同じ部分をなでると、治るといわれている

⑤菩提寺／人体解剖発祥の地

家康の甥・松平忠頼が両親の冥福を祈るために開いた。菩提寺には浜松で最初の人体解剖に遺体を提供した長谷川直盛（士族）と藤井仙十（浜松監獄の死刑囚）の墓がある

⑥石川倉次の碑

日本点字の考案者。安政6年、現在の鹿谷町で生まれ、31歳のときに点字選定会で石川倉次の案が採択された。11月1日は点字の日

⑦浜松城

徳川家康が17年間居城。食事は玄米食に大豆味噌を中心とした粗食で、薬は自ら調合したといわれる

⑧作左の森

本多作左衛門は大正3年、長篠の戦いの陣中から、ここに居住していたであろう妻子の健康を気遣って「一筆啓上 お仙泣かすな 馬肥やせ」の手紙を送った

⑨魚がし跡

魚屋や乾物屋などが立ち並び、お城の台所として栄えた。近くにある大安寺の酉の市では、美容と健康に良い甘酒が振る舞われる